

10 違いを知り、違いを尊重し合う（外国人）

5 （ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市が
送おくりする「こころのオルゴール」の時間じかんです。今日は私わたし、ゴ
リけんがお届けとどけします。

10 福岡市ふくおかしには、令和3年れいわ ねん5月末時点がつまつじてんでおよそ3万7千人まん せんにんの
外国人がいこくじんが暮くらしています。外国がいこくにルーツを持つ子こどもたちも
増ふえ、日本語にほんごがうまく話はなせない児童生徒じどうせいとのために日本語教室にほんごきょうしつ
を設置せつちしている小中学校しょうちゅうがっこうが、市内しんないに15校こうあります。

15 その一つひとつが、東区ひがしくの城香中学校じょうこうちゅうがっこうです。
校区こうくの近くちかには以前いぜん、留学生会館りゅうがくせいかいかんがあり、その子こどもや孫まご
が学校がっこうに通かようようになったことから、平成9年へいせい ねんに日本語教室にほんごきょうしつ
が設置せつちされました。

20 その後ご、留学りゅうがくや結婚けっこん、就労しゅうろうなどの理由りゆうで校区こうくに移住いじゅうする
外国人がいこくじんが増ふえ、その子こどもたちの転入てんにゅうが相次あいつぎます。そこで、
日本語教室にほんごきょうしつを「ワールドルーム」と呼よぶようになりました。
現在げんざい、城香中学校じょうこうちゅうがっこうには、中国ちゅうごくをはじめ世界9カ国せかい こくの国々くにぐにを
ルーツもに持つ生徒せいとが通かよっています。

ここでは、ルーツの違ちがう生徒せいとたちが同おなじ教室きょうしつで学まなぶのは当あ
たり前まえの風景ふうけいで、特別視とくべつしはしません。日本語にほんごが分わからない
転入生てんにゅうせいに対たいしては、英語えいごやジェスチャーつかを使ってコミュニケ
ーションしぜんをとりながら、自然しぜんにサポートしていきます。

一方、転入生たちは最初、授業内容の違いなどに戸惑うこともありますが、ワールドルームで日本語を覚えながら、学校生活に馴染んでいきます。放送部に入って、日本語での校内放送に挑戦している転入生もいます。

生徒たちが楽しみにしている「城香フェスタ」という行事もあります。世界の国々とながりのあるゲストティーチャーを招いて交流したり、文化や慣習などの違いをクイズ形式で楽しんだりしながら、いろいろな国のことを学んでいます。こうして生徒たちは、お互いの国のことを知り、理解を深めていくのです。

日本語指導担当教員の吉田憲太郎先生は、生徒たちから教えられることが多いと言います。

【吉田先生役】生徒たちは、相手のルーツや肌の色などは関係なく、この人はどういう人か、一人の「人」として見ています。お互いに違いがあるのは、おかしいことでも不思議なことでもない。多様性が自然と根付いているようです。